届け 世界の果てまでも

令和４年４月１２日　Ｎｏ．２　文責　校長　飯久保一男

自分の安全（命）は自分で守る

昨年度も似た内容の通信を配付しましたが最初なので…

４月７日から，ＰＴＡ保体補導部の皆さんにお忙しい朝に登校指導をしていただいています。

…３年前までは，教職員も分担をして登校指導を行っていました。昨年度は数名が出ていきました。しかし，今年度の４月は，コロナ禍（地域の感染レベル２）にあって，登校時の玄関での健康チェック，登校後の指導を分担しますと，今年度は，校長・教頭しか出ていけない状況になってしまっています。

黄色い帽子の新１年生が登校してくる姿は，微笑ましくもありますが，不安でもあります。今年の春の全国交通安全運動の期間は，４月６日～１５日です。その交通安全運動の重点には，次のような言葉があります。

・交通事故死者数全体のうち，歩行中の割合が最も高いこと
・歩行者側にも横断歩道外横断や車両等の直前直後横断等の法令違反が認められること
・次代を担う子どものかけがえのない命を社会全体で交通事故から守ることが重要であるにもかかわらず，幼児・児童の死者，重傷者は歩行中の割合が高く，特に，入園や入学，進級を迎える４月以降に幼児・児童の歩行中の交通事故が増加する傾向にあるなど，依然として道路において子どもが危険にさらされていることから，これら歩行者の安全確保を図る必要があること

「４月以降に交通事故が増加する傾向…」まさに，今がそのときです。特に，黄色い帽子をかぶって歩いている１年生を見ると，

- □　**徒歩での登下校に慣れていない。**
- □　**登下校中のいろいろなものに興味をもち，注意が散漫になる。**
- □　**登下校の疲れや学校生活における緊張の疲れがたまり，安全への意識が薄くなる。**

など，様々な心配があげられます。

このような状況をご理解いただく中で，保護者の皆さんをはじめ，見守り隊の方々や，自主的に登下校を見守ってくださる有志の方々など，朝のお忙しい時間や夕方の時間など，子どもたちの安全な登下校のためのご出労には，大変感謝をしております。現在，１年生が給食を食べずに午前中で帰っています。お迎えに来てくださっている１年生の保護者の皆さん（おじいちゃん・おばあちゃん）にも大変感謝しております。

４月６日の入学式のあとに「見守り隊出発式」が，地域有志の見守り隊の皆様をはじめ，警察，民生委員の皆様，小笠原区・山寺区の役員の皆様の参加のもと行われました。私からもごあいさつを申し上げる機会をいただきましたので，次のようなお願いをさせていただきました。

（前略）…今年度は，一つお願いがあります。本校では「自分の安全や，自分の命は自分で守る」子どもを育てることを目指しています。４月はこれまで同様，旗を出していただき，子どもたちの道路の横断のご指導をお願いしたいと思いますが，５月ごろからは，徐々に旗を出すのを控えていただき，子どもたちが自分で安全を判断して道路の横断ができるようにご指導いただきたいと思います。勝手なお願いですが，意図をご理解いただき「口は出すけど，手や旗は出さない指導」へと徐々に変えていってほしいと思っております。…（後略）

子どもたち自身が「自分の安全（命）は自分で守る」ことができるように育つ必要がありますし，私たち教職員には，それを指導する責任があります。それでも，小学生には，見守ってくださる大人の目が必要です。

「自分の安全（命）は自分で守る子どもを育てる」ことを考えますと，１年生が登校を始めた今の時点では，大人が旗を出していただいて安全に横断させていただくことをお願いしたいと思いますが，いつまでもそれでは困ります。子どもたちが，大人や上級生を頼っているうちは「自分の安全（命）は自分で守る子ども」とはいえません。自分で安全かどうかを判断し，横断できるように指導し，育てることが，学校・保護者・地域の役割だともいえるのです。

現在の１年生の午前中の下校には，１年生の下校を指導しながら，各方面に教職員がついていっています。私もその中の一つのグループ担当し，１年生の下校に付き合っています。道路を横断する場面になったとき，１年生の子どもたちに，道路を渡っていいかどうかを確認させて，渡っていいと判断できたら渡るように指示を出すだけで，車を止めたり，先に渡り出したりしていません。黄色い旗も持っていません。「自分の安全（命）は自分で守る子どもを育てる」ということは，こういうことを積み重ねていくことだと思っています。

そうはいっても，交通事故は命に直結しますので，大人の力は必要です。指示や指導も欠かせません。危険だと思われる場合は，子どもたちを叱っていただきたいと思います。また，危険な場面を見かけたという場合には学校まで連絡をいただいても結構です。繰り返しになりますが「自分の安全（命）は自分で守る子どもを育てる」ためのご協力をお願いします。

左の絵は，出会ってほしくない怪獣「コウツウジゴラ」と称して，一昨年から何度か子どもたちに紹介しています。前号で，出会ってほしい怪獣「カッコイー」を紹介したことはお知らせしましたが，今年度，この「コウツウジゴラ」は入学式で１年生に紹介しました。この怪獣に出会わないことを約束できる人は手を挙げてくださいと１年生に尋ねたところ，１年生全員が手を挙げました。

子どもたちが，安全で安心できる毎日を過ごせること，これは，学校・保護者・地域の切なる願いです。

私の母（８５歳）は，我家と同じ敷地の別棟に住んでいます。
朝，私が出勤するときは，母の家の前を通って車に乗り込みます。
還暦を迎えようという息子に今でも「運転気を付けなよ」と声がかかります。
親というものは，子どもが何歳になったとしても，心配でしょうがないのです。